Chunichi Asset
Group Resources

中日アセット グループリソース

※掲載情報は2025年4月時点のもの

中日ドラゴンズ

幅広い世代で人気を集めるスポーツコンテンツ

■ 運営／株式会社 中日ドラゴンズ
■ 所在地／〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1-1-51
■ 公式HP ／ https://dragons.jp/
■ 営業時間／ 10:00～18:00
■ 本拠地／バンテリンドーム ナゴヤ（名古屋市東区）
※岐阜、豊橋などでも主催試合を行います。

中日ドラゴンズはバンテリンドーム ナゴヤを本拠地とするプロ野球チームで、中日新聞社の子会社である株式会社 中日ドラゴンズが運営。1936年のチーム創設以来、リーグ優勝9回、日本一2回の成績を残しています。東海・北陸地方は熱心なドラゴンズファンが多く、主催試合ではバンテリンドーム ナゴヤを中心に平均約30,000人の観客を集めます。AMラジオ局（東海ラジオ、CBCラジオ）では毎試合中継が放送され、在名テレビ局（東海テレビ、CBCテレビ、テレビ愛知、三重テレビ、NHK）でも試合中継やドラゴンズの番組が放送されています。オリジナルユニホームがもらえる「昇竜デー」や女性向けサービス盛りだくさんの「ガールズシリーズ」などさまざまなファンサービスイベントを実施しファン層の拡大に取り組んでいます。

選手のほかにも、高い人気を誇る「ドアラ」「シャオロン」「パオロン」の球団マスコットやキレのあるダンスで試合を盛り上げるオフィシャルパフォーマンスチーム「チアドラゴンズ」などコンテンツが豊富です。

シーズン終了後には、東海エリアの各地各所でドラゴンズ選手を招いたサイン会やトークショーなど、楽しいファンとの交流イベントが催され地域に親しまれています。野球を通じた地域の子どもたちの健全な育成、スポーツの振興を図るためにNPO法人「ドラゴンズベースボールアカデミー」は愛知・岐阜・三重でのスクール事業や子どもを対象にした野球体験イベントを年間通じて実施しています。

ゲームスポンサー

（株）ナゴヤドームと共同でバンテリンドーム ナゴヤ開催の主催試合のゲームスポンサーを販売しています。試合にスポンサー名を冠表記するほか、期間限定のドラゴンズ商標の使用、入場チケットへのスポンサー名表記ができます。

また、試合当日には、始球式やスポンサーのマスコットと「ドアラ」ら球団マスコットとのグラウンドでの共演、バンテリンドーム ナゴヤに設置された大迫力の106ビジョンやコンコースサイネージなどの各種PR施策が可能です。地元自治体や企業、ナショナルクライアントまで多く利用されています。露出を拡大するため、ゲームスポンサーに合わせた中日新聞や中日スポーツ紙面広告の活用も人気です。

女性や子どもの人気者「ドアラ」

球団マスコットは「ドアラ」、「シャオロン」、「パオロン」。中でも「ドアラ」は奔放な性格と愛嬌のあるパフォーマンスで女性や子どもからも愛されています。イベント出演や写真集・DVDを発売するなど人気者です。

この「ドアラ」をはじめとした球団マスコット、ロゴなど商標利用のプランをご用意しています。企業の商品やサービスの販促活動・キャンペーンの盛り上げをお手伝いします。

©中日ドラゴンズ

バンテリンドーム ナゴヤ

バンテリンドーム ナゴヤ

野球に、コンサートに、東海地方屈指の集客空間

© (株) ナゴヤドーム

■ 所在地／〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1-1-1
■ 電話／052-719-2121（代表）
■ ＵＲＬ／https://www.nagoya-dome.co.jp/
■ 規模／両翼100m　中堅122m　フィールド面積13,200㎡
■ 客席数／36,412席（2025年プロ野球時）
■ 収容人数／48,819人（2025年時点、アリーナ使用時最大）

バンテリンドーム ナゴヤは、1997年3月にオープンした、中日ドラゴンズが本拠地球場とするドーム型野球場です。東海地区最大級の集客空間で、2023年6月には来場者数累計が1億人を突破しました。運営は、株式会社ナゴヤドームが行っています。名古屋市内中心部から地下鉄で20分程度の郊外に位置し、大型ショッピングセンターが隣接することから、連日多くの人でにぎわっており、年間約400万人が来場します。特に中日ドラゴンズ公式戦時の集客は抜群で、シーズン中に約230万人が観戦します。

野球開催時（2025年）の収容人数は36,412人なので、短時間で効率的なプロモーション活動を行うのに便利です。ドーム内では、全長106mある大迫力の大型ビジョン「106ビジョン」で、巨大広告（静止画）やコマーシャル映像を流すことができます。さらに、コンコースには66面のデジタルサイネージが設置されており、効果的なプロモーション活動を行うことができます。

プロ野球以外にも、音響、照明、106ビジョン設備をフルに活用した展示会、スポーツイベント、コンサートなど多数のイベント会場として使用されています。

ほかにも、広大な駐車場を有しており、自動車の試乗会や飲食イベントなど、屋外でのイベント開催も可能です。

© (株) ナゴヤドーム

大迫力の106ビジョン

2025年1－2月にLEDパネルを更新し全長が「106.56m」→「106.00m」となり、ジャストサイズになりました。

© (株) ナゴヤドーム

2階コンコース デジタルサイネージ

コンコースには55インチ66面のデジタルサイネージを設置。試合前、試合後はフルサイズ、試合中は2/3サイズ（下の1/3に中継映像が流れます）。1枠15秒（6分1ロール）。1試合から出稿可能です。

© (株) ナゴヤドーム

ジブリパーク

スタジオジブリ作品の世界を表現した公園施設

© Studio Ghibli

■ 事業主体／愛知県
■ 管理運営／株式会社ジブリパーク（中日新聞社、スタジオジブリが共同出資して設立）
■ 所在地／〒480-1342 愛知県長久手市茨ケ廻間乙1533-1
愛・地球博記念公園（モリコロパーク）内
■ 公式HP ／ https://ghibli-park.jp/
■ 営業時間／ 10時～17時（平日）9時～17時（土日休）
■ 休園日／毎週火曜（火曜が休日の場合は翌平日）、指定日
■ エリア構成・規模／ジブリの大倉庫（約0.8ha）、青春の丘（約0.8ha）、
どんどこ森（約1.8ha）、もののけの里（約0.8ha）、
魔女の谷（約2.9ha）

2005年に現在の愛・地球博記念公園をメイン会場に「自然の叡智」をテーマに開催された愛知万博。その公園内に開園したのがジブリパークです。国内外で多くの人たちに親しまれてきたスタジオジブリ作品の世界を表現した公園施設です。5エリアが公園内に点在し、既存施設や自然と共存するように整備されました。「ジブリの大倉庫」、「青春の丘」、「どんどこ森」が第1期整備エリアとして2022年11月に開園しました。「もののけの里」が2023年11月に、「魔女の谷」が2024年3月に第2期整備エリアとしてそれぞれ開園しました。

「ジブリの大倉庫」はいろいろな“ジブリ”がぎゅっと詰まった屋内空間。映像展示や企画展示、子ども向けの遊び場の他、カフェやショップがあります。『千と千尋の神隠し』の湯婆婆が執務する「にせの館長室」や『天空の城ラピュタ』のロボット兵がたたずむ「天空の庭」などでは作品の雰囲気に浸ることができます。

「魔女の谷」は魔女が登場するジブリ作品をイメージしたヨーロッパ風の空間です。『魔女の宅急便』の「グーチョキパン屋」や「オキノ邸」、『ハウルの動く城』の「ハッター帽子店」や「ハウルの城」、『アーヤと魔女』の「魔女の家」が建ち、「メリーゴーランド」他の遊具、レストラン、ショップもあります。

老若男女問わず楽しく過ごせるジブリパークには国内はもちろんのことジブリ作品の世界観を求めて海外からも多くの人が訪れています。

〈チケットの種類と料金〉

予約制で入場2カ月前の10日14:00に発売、チケットは「ジブリパーク　大さんぽ券プレミアム」「ジブリパーク　大さんぽ券スタンダード」「ジブリパーク　魔女の谷・もののけの里」「ジブリパーク　ジブリの大倉庫」「ジブリパーク　青春の丘」「ジブリパーク　どんどこ森」の6種類があります。

「ジブリパーク　大さんぽ券プレミアム」は、5つのエリアすべてに入場できるチケットです。「魔女の谷」にある「オキノ邸」「ハウルの城」「魔女の家」などすべての建物の中を観覧できます。

名古屋グランパス

全国有数の動員数を誇るJリーグの人気チーム

■ 運営／株式会社 名古屋グランパスエイト
■ 所在地／〒470-0344 愛知県豊田市保見町井ノ向57-230 トヨタスポーツセンター内
■ 電話／ 0565-79-8880
■ 公式HP ／ https://nagoya-grampus.jp/
■ ホームスタジアム／改築中。2026年完成予定（30,000人収容予定）
豊田スタジアム（40,000人収容可）

名古屋グランパスは、名古屋市、豊田市を中心とした愛知県をホームタウンとするJリーグ加盟のプロサッカーチームです。トヨタ自動車サッカー部を母体として1991年に発足、Jリーグ創設当初から加盟している“オリジナル10”の一つです。2008年より、呼称を「名古屋グランパス」に変更（正式名称は名古屋グランパスエイト）となりました。ホームスタジアムは名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムと豊田市の豊田スタジアムを併用。公式マスコットは、「グランパスくん」をはじめとしたグランパスファミリー。1995年と99年に2度、天皇杯を制覇、2010年には念願のJ1優勝、YBCルヴァンカップでは2021年に初優勝を果たしました。J1へ復帰した2018年シーズンはホームゲーム平均入場者数が24,000人、翌年の2019年は27,000人を超え、Jリーグ屈指の集客力をもつ人気チームです。

名古屋グランパスサッカースクールを愛知県内に14校展開。一貫したコンセプトのもと幼児から中学生までの子どもたちにサッカーの楽しさを伝えられるよう指導しています。

なお、中日新聞社は設立時より資本参加、新聞を通じたチーム動向のニュース発信はもとより、名古屋グランパスオフィシャルイヤーブックや月刊誌「グラン」の発行、中日スポーツが総力を挙げて取材した詳細なチーム情報を届けるWEBサイト「Grampus Watcher」（ https://sp.chunichi.co.jp/gra/）などでチームを盛り上げています。

メニュー満載なPR展開

名古屋グランパスでは、企業PR・社会貢献活動など様々なニーズに活用できるメニューを取り揃えています。試合当日には大型ビジョン、バックスタンドLED、デジタルサイネージ、ピッチ看板や場外ブース、サンプリングなど、企業様の露出やサービスの認知向上などをお手伝いします。

中日ビル

名古屋・栄の新たなランドマークとなる国際的なにぎわいと交流の拠点が誕生

■ 事業主体／中部日本ビルディング株式会社
■ 共同事業者／株式会社中日新聞社
■ 所在地／〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1
■ 電話／ 052-263-7000（代表）
■ 公式HP ／ https://chunichi-building.jp
■ 階数／地下5階、地上33階、塔屋1階
■ フロア構成／地下1階～地上5階（商業施設）、4・5階（集客施設・文化関連施設）、6階（多目的ホール、貸会議室）、7階（屋上広場・レストラン）、9階～22階（オフィス）、24階～32階（ホテル）

中日ビルは名古屋の中心部・栄のランドマークとして1966年に開業しました。地下鉄栄駅に直結した抜群の利便性と、劇場や文化センター、ショッピング街、飲食店、催事場、宴会場などをもつ多目的ビルとして長年、栄ににぎわいをもたらせてきました。長きにわたり栄エリアのにぎわいの中心であった中日ビルは、全面建て替えを経て、2024年4月に新たな栄のランドマークとして生まれ変わりました。

33階建てへと高層化し、最新鋭の複合ビルに進化した新中日ビルは「これからも、まちとサカエる。」をコンセプトに、レストランやカフェ、雑貨、レコードショップのほか文化センター、全国の道県事務所など様々なテナントが入り、その数は90を超え、栄に新たなにぎわいをもたらしています。高層部にはホテル、6階にはホール＆カンファレンスもあり、多くの人々の出会いを創出しています。

中日ビルが主体となり、様々なイベントやコラボレーション企画を実施し、来館者に楽しみや喜び、ときには驚きを数多く提供します。複合ビルの利点を活かしたイベントや独自企画で最大限のPR効果を実現します。

中日ホール

講演会やシンポジウム、展示会、展覧会、パーティーなどに利用できる多目的ホールです。電動移動観覧席や電動昇降ステージ、コンサート用音響設備、オールLEDスポットライトなどの舞台設備も備えており、ライブコンサートなどの実施も可能です。

カンファレンス

大小8室の会議室は会議やセミナー、研修などに利用できます。3室ある大会議室には170インチのスクリーンが備えてあり、大画面でのプレゼンテーションが可能です。ボードルームにはパントリーが併設されており、約90名の懇親会などに利用できます。

中日文化センター

全国屈指の規模を誇る中日文化センター栄を擁するカルチャースクール

■ 運営／中日新聞社事業局
■ 本部所在地／〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4階
■ 電話／ 052-263-7111
■ 公式HP ／ https://www.chunichi-culture.com/
■ 教室／栄、鳴海、南大高、犬山、高蔵寺、豊田、知立、ぎふ、大垣、津、金沢

中日文化センターは東海・北陸地方に11センターを展開。それぞれが地域と密着しながら時代のニーズに合った講座を数多くそろえ、地域の人々の期待に応えています。

中日文化センターの核となるのが中日文化センター栄です。中日文化センター栄は1966年、名古屋・栄の中日ビルのオープンと同時に開設、中日新聞社が運営する生涯学習の拠点として、約1,000講座、約14,000人の会員を誇る、全国でも最大規模のカルチャースクールです。2018年10月に中日ビルの建て替えに伴い、久屋中日ビルへ一旦移転、その後、新たに生まれ変わり2024年4月にグランドオープンした中日ビルに戻ってきました。

新しい施設はオンライン講座にも対応できる一般教室や、壁一面にミラーのあるスタジオルームに加えて、和室や音楽教室、絵画教室も設けられています。会員は40代以上の女性が中心。日常生活をポジティブに過ごしたい方、学習意欲が高くスキルの上達に熱心な方が多いのが特徴です。

また、企業とのタイアップセミナーやチラシの設置も可能。女性の趣味にあわせたプロモーション活動に効果的です。さらに、各種講演会、セミナーなどに講師派遣も行っています（いずれも有料）。

企業タイアップ講座

じっくり商品や企業のことを学んでもらうことのできる企業タイアップ講座の実施が可能です。ソフトバンクとタイアップした「スマートフォン体験教室」、補聴器販売会社との「知って安心！聞こえと補聴器」などの事例があります。規模や回数は要相談。

PRチラシ・カタログの設置

1カ月にのべ30,000人が来場する中日文化センター栄をはじめ、各文化センターの受付付近に、チラシやカタログを設置することができます。設置は1カ月単位です。活動的で好奇心旺盛な人の多い文化センター会員に対して気軽に企業の商品やサービスをPR活動できます。

中日ハウジングセンター

ファミリー層で賑わう住まいの情報拠点

2019年7月にオープンした新・神宮東ハウジングセンター

■ 主催／中日新聞社メディアビジネス局　中日ハウジングセンター事務局
■ 電話／ 052-221-1056
■ 公式HP ／ https://www.chunichi-hc.ne.jp/
■ 営業時間／ 10:00-17:00
■ 定休日／【新・神宮東/岡崎/豊橋/大垣】年末年始
【可児/浜北】年末年始／毎週水曜日（祝日営業）

中日ハウジングセンターは、出展住宅会社のモデルハウスを見学できる中日新聞社直営の総合住宅展示場です。愛知県名古屋市内１会場（熱田区）、三河地区２会場（岡崎市、豊川市）、岐阜県内2会場（大垣市、可児市）、静岡県浜松市内１会場（浜名区）の合計6会場で展開しています。構造・工法、二世帯住宅やスマートハウスなどに関する情報ご提供のほか、新築やリフォームなど住宅取得全般に関する各種相談会を実施しています。

また「家を建てると決めた人」に限らず「将来、家を建てたい方」にもご利用いただけるよう、キャラクターショーやマルシェなど、子育て世代から建替え世代まで楽しんでいただけるイベントも多数開催しております。

その他に中日新聞社では、一般社団法人ナゴヤハウジングセンターが、愛知県下で運営する総合住宅展示場「ナゴヤハウジングセンター」に共催し、県下5会場の事業、広報活動を通じて運営にも関わっています。

ブース出展やサンプリング

週末などイベント開催時はファミリー層を中心に多く人々が来場しにぎわいます。来場者に向けて、ハウジングセンター会場内へのブース出展やサンプリングも可能です。小さな子ども連れが多いので、子どもに喜ばれるような工夫があると効果が上がります。(内容について、事前に確認が必要です)

センターハウスでのPR

各ハウジングセンターには案内所を兼ねたセンターハウスがあります。センターハウスの中には会議やセミナーができるスペースがあり、商品やサービスのPRイベントの実施が可能です。写真は映画とタイアップしたパネル展の様子です。センターハウス内にポスターやチラシ・パンフレットを設置することができます。(内容について、事前に確認が必要です)

中日カントリークラブ

中部アマプロゴルフ選手権大会開催コース

■ 運営／中日本開発株式会社
■ 所在地／〒519-0272 三重県鈴鹿市東庄内町字上宮代1447
■ 電話／ 059-371-1188
■ 公式HP ／ https://www.chunichi-cc.com/
■ 規模／27ホール、10,411Y、パー 108 〈西コース〉9ホール、3,555Y、パー 36
〈中コース〉9ホール、3,534Y、パー 36〈東コース〉9ホール、3,322Y、パー 36
■ コース設計者／冨沢誠造、冨沢広親

中日カントリークラブは、中日新聞グループの中日本開発株式会社が事業運営するゴルフ場です。1979年、三重県鈴鹿市に開場。鈴鹿連峰を背景にしたゆるやかな丘陵地で、緑濃い自然条件に恵まれています。全コースフラットで、豪快なショットを味わっていただける一方、程よい変化にも富んでおり、中部アマプロゴルフ選手権をはじめ、プロの試合に応えうるコースでありながら、一般ゴルファーの方々にも、何度プレーしても飽きないと好評です。東名阪自動車道鈴鹿ICから４kmと名古屋ICからのアクセスが便利。

四季折々の美しい景観のなかで、すばらしいゴルフライフを楽しんでいただけます。

新聞社との企画ゴルフ大会

中日カントリークラブでは、中日新聞や中日スポーツ主催のゴルフ大会を数多く実施しております。大会によっては、新聞社と共同で企業の協賛を募集しております。ゴルフ大会での賞品提供や商品・サービスのサンプリングなどを通じて参加者へのプロモーション活動を行ってもらうことができます。大会に関連してコースに自動車の車両展示をすることもできます。

広いゴルフ練習場

コースボール使用の広大な敷地の練習場も自慢。ドライバーからウェッジまで練習可能で、ドライバーは250yを超える飛距離もOK ！

ゴルフクラブの試し打ちイベントなど、ゴルフに関連したプロモーション活動にはもってこいの会場です。また、大きなスケール感を活かしてカルチャースクールのドローン講習会などゴルフ以外の利用実績もあります。

文化・スポーツ事業

多くの文化・スポーツ事業、イベントを開催しています。中日新聞、東京新聞主催事業を活用したさまざまな企業・団体のコミュニケーション展開が可能です。

中日新聞

■展覧会

	会期	会場
海のシルクロード 絣の道	6月28日～9月21日	豊田市民芸館
伊藤慶二展	6月28日～9月28日	岐阜県現代陶芸美術館
近代日本画のトップランナー 竹内栖鳳展	7月4日～8月17日	愛知県美術館
特別展「古代DNA―日本人のきた道―」	7月19日～9月23日	名古屋市科学館
橋口五葉のデザイン世界	7月23日～8月31日	碧南市藤井達吉現代美術館
中日ドラゴンズ ～激闘の軌跡展～	8月6日～18日	ジェイアール名古屋高島屋10階特設会場
土岐市制70周年記念事業 第17回現代茶陶展	8月9日～17日	セラトピア土岐
特別展「日本妖怪展」	9月13日～11月3日	安城市歴史博物館
第47回美濃陶芸展	10月3日～12月21日	とうしん美濃陶芸美術館
鈴木繁男 手と眼の創作	10月11日～2026年1月12日	豊田市民芸館
特別展「深宇宙展 ―人類はどこへ向かうのか―」	10月18日～2026年1月18日	豊田市博物館
タピオ・ヴィルカラ展	10月25日～2026年1月12日	岐阜県現代陶芸美術館
風と光のアート 鈴木英人の世界展	11月1日～30日	豊橋市美術博物館
吉岡弘昭展	11月15日～12月21日	碧南市藤井達吉現代美術館
再興第110回院展	11月22日～30日	松坂屋美術館

■舞台

第7回中日落語会	6月29日	Niterra日本特殊陶業市民会館ビレッジホール
第68回中部日本吹奏楽コンクール本大会	10月4日～5日	アクトシティ浜松（静岡県）
名匠狂言会	11月5日	名古屋能楽堂
第78回中部日本高等学校演劇大会	12月24日～26日	穂の国とよはし芸術劇場PLAT

■イベント

第66期王位戦 前夜祭・大盤解説会	7月4日 前夜祭	小牧市市民会館
	7月6日 大盤解説会	小牧市市民会館
第9回名古屋城こども王位戦	8月2日	中小企業振興会館（吹上ホール）
広小路夏まつり	8月23日、24日	名古屋・広小路通
にっぽんど真ん中祭り	8月29日～31日	久屋大通公園一帯、県内各所
将棋日本シリーズ JTプロ公式戦/テーブルマークこども大会東海大会	10月12日	ポートメッセなごや第3展示室
備える！中日サバイバルキャンプ	10月中旬	愛知県内
やっとかめ文化祭 DOORS	10月下旬～11月中旬	名古屋市内各地

■スポーツ

中日少年野球・ポッカサッポロ杯名古屋市予選・愛知県大会	6月下旬～8月上旬	名古屋市
大相撲名古屋場所	7月13日～27日	IGアリーナ
中日杯岐阜女子アマゴルフ	7月22日	明世CC
中部ジュニアゴルフ	7月24日、25日	東名古屋CC
長良川国際トライアスロン	7月27日	海津市
中日レディースカップゴルフ	7月31日	名四CC
ドラゴンズカップ中学硬式野球	8月中旬	バンテリンドーム ナゴヤほか
中部日本地区選抜中学軟式野球	8月14日～17日	蒲郡市公園グラウンド
中部年代別ゴルフ	8月22日	三好CC
中部ジュニア親子ゴルフ	9月7日	名古屋広幡GC
秋の女性レクバレー	9月10日～10月7日	名古屋市
メニコンカップ日本クラブユースサッカー東西対抗戦	9月中旬	未定
中部実業団陸上	10月4日	多治見市
中部レディスゴルフ	10月14日	名古屋広幡GC
名古屋少年サッカー	10月中旬～26年3月上旬	名古屋市
高円宮杯JFA全日本ユースU－15サッカー東海大会	11月上旬	愛知県
いびがわマラソン	11月9日	岐阜県揖斐川町
中部・北陸実業団対抗駅伝	11月9日	田原市
中部日本ゴルフマスターズ	11月13日、14日	日本ラインGC
中部日本都市対抗軟式野球	11月13日～16日	名古屋市ほか
ドームドッジ2025inナゴヤ	11月中旬	バンテリンドーム ナゴヤ
中部女子ゴルフクラブ対抗戦	11月17日	東名古屋CC
中部シニアチャンピオンズゴルフ	12月4日	スリーレイクスCC
野口みずき杯中日三重お伊勢さんマラソン	12月上旬	伊勢市
東海学生駅伝	12月上旬	知多半島
みえ松阪マラソン	12月21日	松阪市

東京新聞

■展覧会

	会期	会場
特別展「氷河期展～人類が見た4万年前の世界～」	7月12日～10月13日	国立科学博物館
特別展「深宇宙～人類はどこへ向かうのか」	7月12日～9月28日	日本科学未来館
ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢	9月12日～12月21日	東京都美術館
遠い窓へ 日本の新進作家Vol.22	10月2日～2026年1月7日	東京都写真美術館
野島康三と斎藤与里	11月1日～2026年1月18日	埼玉県立近代美術館
第47回東京書作展	11月19日～24日	東京都美術館
小林徳三郎	11月22日～2026年1月18日	東京ステーションギャラリー

■舞台

第82回全国舞踊コンクール アンコール公演	6月14日	めぐろパーシモンホール
第72回児童舞踊合同公演	6月15日	めぐろパーシモンホール
第52回現代舞踊展	8月2日～3日	彩の国さいたま芸術劇場
第59回推薦名流舞踊大会	9月20日	浅草公会堂
第32回名流祭	11月1日	浅草公会堂

■スポーツ

高円宮賜杯第45回全日本学童軟式野球大会マクドナルドトーナメント東京都大会	5月10日～6月14日	府中市民球場 ほか
みやこdeタウントレック	通年	都内
グリーンリボンランニングフェスティバル	10月13日	駒沢オリンピック公園陸上競技場
第46回東京都小学生バレーボール選手権大会	10月下旬～11月上旬	都内
第31回日本トライアスロン選手権	10月26日	お台場

（2025年4月末現在）

出版事業

新聞社の雑誌・書籍の出版事業

〈中日新聞社〉

■ 担当部署／名古屋本社 事業局 出版部
■ 電話／ 052-221-1714
■ 公式HP ／ https://www.chunichi.co.jp/nbook/

名古屋本社事業局出版部では「中日新聞社」として、「月刊ドラゴンズ」、「月刊グラン」など雑誌を定期刊行するほか、連載記事を再編集した単行本など、幅広いジャンルの書籍を発行しています。

月刊ドラゴンズ

「月刊ドラゴンズ」（定価550円）は発行部数8万部で、1983年の創刊以来、迫力ある写真や選手の核心に迫るインタビュー、試合詳報など熱心なドラゴンズファン納得の充実した内容。電子版もあります。広告掲載はメディアビジネス局スポーツ部まで。

月刊グラン

「月刊グラン」（定価700円）は1994年創刊の、名古屋グランパスサポーターマガジン。選手の本音に迫るインタビュー、ゲームリポート、コラムなど盛りだくさんの内容です。Fリーグ（日本フットサルリーグ）の名古屋オーシャンズの情報も載っています。毎月12日発行。広告掲載はメディアビジネス局スポーツ部まで。

中日新聞フォトサービス

中部地方の歴史を刻み続ける貴重な写真データベース

中日新聞社電子メディア局が提供する中日新聞、中日スポーツ、東京新聞など中日新聞グループ紙に掲載された写真を提供するサービスです。100年以上前から最新の写真まで、愛知、岐阜、三重の東海三県を中心に貴重な資料写真を多数保有しています。料金は個人、メディア、広告宣伝利用など用途によって異なります。キャビネサイズのプリントからA3プリント、ラミネート加工、メディア、広告宣伝利用にはデジタルデータでの提供も可能です。ただし、提供できる写真は当社の取材写真に限られ、中日ドラゴンズ以外の球団およびプロスポーツ選手、芸能人、事件事故の現場やプライバシー侵害にあたる写真、国内外の通信社が配信した写真は提供できません。また、出版物やHPへ転載、複写する場合は、別途版権使用料が必要です。

■ 運営／中日新聞社電子メディア局　企画営業部内　中日新聞フォトサービス係
■ 電話／ 052-203-4500
■ 受付時間／ 10:00～17:00
■ 公式HP ／ https://www.chunichi.co.jp/info/photo

写真パネル展の開催

貴重な過去の報道写真などをパネルにして展示する催事の開催が可能です。豊富な写真の中からさまざまなテーマに沿った写真パネルを提供します。メディアビジネス局にお問い合わせいただければ、展示解説や写真解説、パネル展の告知まで含めたプランをご提案。施設の歴史を紐解く写真展示や店舗誕生時の世相を振り返る写真展示など、店舗や施設の盛り上げに利用されています。

中日ツアーズ

中部から国内へ海外へ、中日新聞グループの旅行会社

中日ツアーズ
中日新聞グループ

1962年に創立した中日企業が運営する旅行サービスで、国内旅行から海外旅行までさまざまな旅行商品を提供しています。専門分野の講師同行ツアーや写真家同行撮影ツアー、ドラゴンズ観戦ツアーなどテーマ性のある旅行が充実しています。飛鳥Ⅱ、にっぽん丸の邦船からダイヤモンド・プリンセス、クイーン・エリザベスなど外国船のクルーズ、中日新聞社主催の大相撲名古屋場所開催中には「観戦ランチプラン」、地方新聞社系列の旅行会社でつくる全国新聞旅行協議会による限定ツアーなど中日新聞グループならではの旅行企画を行っています。このほか、ご家族・ご友人同士など少人数での飛行機や列車利用のホテルの手配、子供会など地域の行事やバンテリンドームナゴヤでの野球観戦のバス手配などのお手伝いもしています。

■ 運営／中日企業株式会社
■ 所在地／〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸1-5-2 中日新聞社北館1階
■ 電話／ 052-231-0800
■ 公式HP ／ https://www.chunichi-tour.co.jp/

観光庁長官旅行業636号　社団法人日本旅行業協会（JATA）加盟　旅行業公正取引協議会会員

バスツアーや旅行説明会でのPR

中日ツアーズでは、さまざまな場所やテーマのバスツアーを開催しています。バスツアー内での商品PRや商品サンプリングが可能です。楽しい旅行のひと時でのPRはポジティブな印象が残ります。また、海外旅行などの事前説明会でのPRもご相談可能です。クルーズ旅行説明会でのフォーマルウェアのPRなど実績があります。

中日病院

医療情報の発信をサポート

中日病院は、1956年に中日新聞社健康保険組合によって開設された病院です。2006年に現在地に移転新築され、玄関や待合ロビーなど随所にスペースが広めにとられた院内は、きれいでゆったりとし、東海地方では珍しい検査中に映像が見られるMRIなど最新の医療設備を整えています。

診療科は、内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、呼吸器内科、腎臓内科、老年内科、外科、乳腺外科、心臓血管外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科、歯科口腔外科の19科。整形外科には名古屋手外科センターが併設されています。また、設備が充実した健診センターがあり、健診業務が診療とともに大きな柱になっています。

■ 所在地／〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-12-3
■ 電話 ／ 052-961-2491（代表）　■ 公式HP ／ http://www.chunichi-hp.jp/
■ 診察時間／ 9:00 ～、13:00 ～　■ 休診日／第2・4・5土曜日・日祝日・年末年始
■ 病床数／ 93床（一般42床、医療療養51床）

病院に併設された「健診センター」

健診センターは1962年から受診を開始した中日新聞社健康保険組合が運営している施設です。健診フロアーは2000平方メートル以上の広さで、脳ドックや胸部CT、血圧脈波検査など各種オプション検査も豊富に取りそろえています。また、乳がん、子宮がんの検査は曜日を問わず実施、検査で異常が発見されたときは、病院の外来診療で各分野の専門医による診療を受けることができます。

社会福祉法人 中日新聞社会事業団

企業のCSR活動の懸け橋にも

中日新聞社会事業団は、中日新聞社を母体に本部と4支部（北陸、東海、東京、岐阜）で、さまざまな社会貢献活動の主催、共催、後援事業を行っています。事業団の歴史は前身である名古屋新聞善行会（1936年）、翌年設立の新愛知新聞社会事業団（1937年）にさかのぼります。東日本大震災では全国紙を上回る90億円を超える義援金を被災地に届けました。同事業団は、CSR事業を展開したい企業のご相談にも応じています。また、こうした活動に加え、事業団は愛知県日進市で児童養護施設と児童心理治療施設を併設した「中日青葉学園」を運営しています。虐待など何らかの理由で親が養育ができない子どもたちを受け入れています。

■ 本部所在地／〒460-8511 愛知県名古屋市中区三の丸1-6-1中日新聞社1階
■ 電話／ 052-221-0580（代）
■ 公式HP ／ https://chunichi-shakaijigyo.jp/
■ 受付時間　10:00 ～17:00（土日祝を除く）
■ 支部／北陸支部、東海支部、東京支部（東京新聞社会事業団）、岐阜支部

中日青葉学園

中日青葉学園は被虐待児、引きこもりや不登校など、学校に通いたくても通えない子どもたちの明るい未来を願い、1960年4月1日に虚弱児施設として誕生した児童養護施設です。2003年からは全国でも珍しい児童心理治療施設が併設された複合型施設になっています。企業の社員研修や見学も受け入れています。

所在地／日進市岩崎町竹ノ山149-164